

課題になっている行動（気になる行動）

目を見て相手と 会話することが難しい

め
それができれば
苦労しない

「目を見て
ちゃんと話さない
(聴きなさい)」



監修・文 水野敦之 絵：宗貞由貴子

環境・状況の要因	本人の特性	本人の経験や気づきの影響
■ 様々な状況の変化 人によって対応や期待が変わる ■ 影響を与える刺激や情報 会話の内容 見えている情報 ■ 必要な支援がない アイコンタクトの難しさに対する配慮や提案がない □ その他	■ <u>社会性・対人関係の特性</u> アイコンタクト、ジョイントアテンションが難しい。 相手のイメージを想像することが難しい ■ <u>全体よりも細部に注目する特性</u> 2つのことを同時にすることが難しい	□ 習慣になっているものがある ■ 自分流の気づき・考え方をもつ無理にでも目をあわせなくては行けない ■ 過去に経験したこと学んだこと注意を受けた経験 ■ 過去に経験したことにより恐怖や嫌悪感をもっていること目をあわせること時代の苦しさ
■ 行動前の状況※ 質問されたり、話かけられたりアイコンタクトに関する配慮や提案がない		■ 行動後の状況・結果※ 目をあわせると注意を受ける

活用できる他の資源	活用できる本人のスキル	活用できる本人の気づき
1対1での相談の時間がある	文章、図、絵、表などの理解	目を合わせると考えがまとまらない 考えると目を合わせることが難しい

支援計画 ※支援の具体的な計画は自立課題シートで整理する方法もあります		
環境を変える部分は？	本人の特性にあわせた支援は？	本人に伝える・教える部分は？
・アイコンタクトの苦手さについて、周囲が理解する。	・アイコンタクトについて無理に強要しない。 ・アイコンタクトに関しての提案をする（例：話す時に胸あたりを見る。アイコンタクトをしなくていい。相手に伝える）	・アイコンタクトについての本人の考え方を整理する ・1対1の相談の時間に、アイコンタクトについて整理する。 ・周囲に自分で説明できるように促す。

解説と支援の方向性について

自閉症の人は、アイコンタクトが少ない人、逆に凝視したり、パターンのだったたりする人がいます。人の話を聞いたり、コメントしながら、同時にアイコンタクトに気を配ることが難しい場合があります。実際に「目を見ると、聞いたり、話したり、考えたりすることができない」と言われるケースもあります。この部分を周囲に話し理解してもらったり（自己権利擁護）、目以外の場所を決めたりするなどの工夫もあります。